

【港区立児童発達支援センター】

(計画相談支援・障害児相談支援)

令和4年度 第三者評価

評価結果報告書

株式会社 日本生活介護

実施概要

■対象事業所：港区立児童発達支援センター

所在地	東京都港区南麻布 4-6-13
指定管理者	港区

■調査方法と実施期間

利用者調査（調査票配付日）	令和4年12月19日～令和5年1月20日
職員自己評価	令和4年12月17日～令和5年1月10日
訪問調査	令和5年2月27日

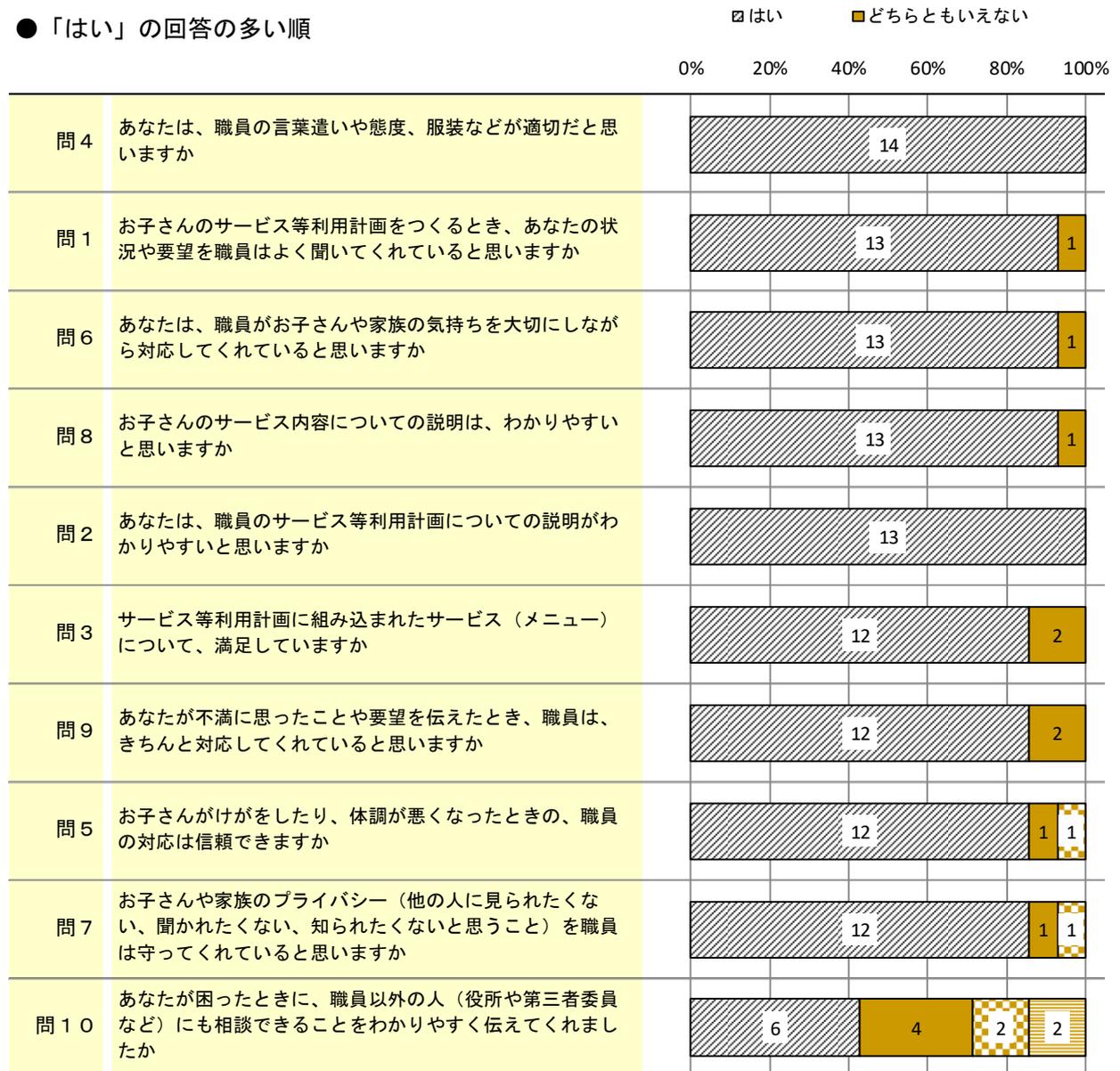
■評価実施機関

株式会社 日本生活介護（東京都福祉サービス第三者評価認証評価機関 機構 02-015） 〒176-0001 東京都練馬区練馬 1-20-2 TEL 03-3991-8440	
評価員	齋藤 貴明 志村 健

利用者調査の結果

(無記名アンケート、有効回答数 14名)

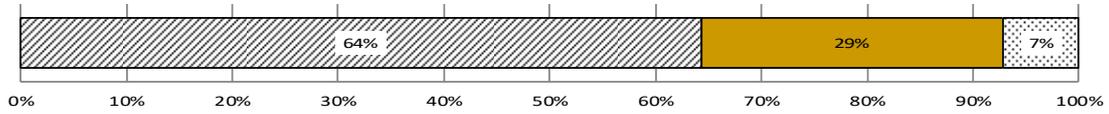
● 「はい」の回答の多い順



※数値は有効回答者数に対する割合

●総合的な感想

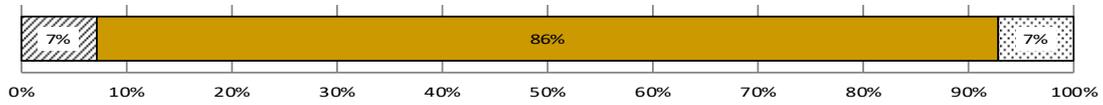
大変満足
 満足
 どちらとも
 いない
 不満
 大変不満
 無回答



大変満足	満足	どちらとも いない	不満	大変不満	無回答
9	4	1	0	0	0

●調査票記入者

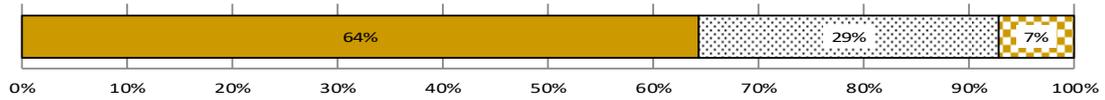
父
 母
 父母一緒に
 その他



父	母	父母一緒に	その他
1	12	1	0

●利用者の年齢層

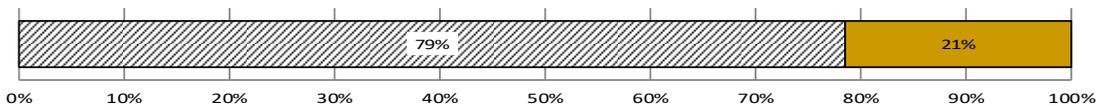
3歳未満
 3~6歳
 未満
 6歳~12歳未満
 その他



3歳未満	3~6歳 未満	6歳~12歳 未満	その他
0	11	3	0

●性別

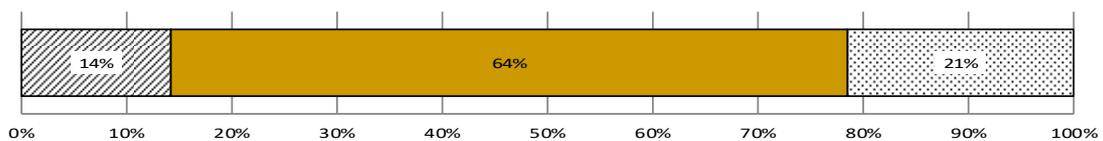
男性
 女性
 無回答



男性	女性	無回答
79%	21%	0%

●サービスの利用年数

1年未満
 1~3年未満
 3~5年未満
 5~10年未満
 その他



1年未満	1~3年未満	3~5年未満	5~10年未満	その他
2	9	3	0	0

事業評価

子どもの個別の情報や要望を把握している		
1	子どもや保護者の特性に応じて、コミュニケーションのとり方を工夫している	○
2	子どもや保護者の個別事情や要望の把握をし、記録している	○
3	子どもおよび保護者から聞き取る以外に観察などで状況を確認し、情報の把握に役立てている	○
4	子どもや保護者の要望以外に、把握した状況を分析し生活課題を抽出している	○
5	アセスメント時に子どもや保護者が望む生活像の把握をしている	○
講評		
<p>子どもの状況に応じたサービス提供の提案を行っている</p> <p>子どもの基本的な生活状況や現状の課題を含めて、家族や関係機関からヒアリングを行い、本人にとって医療や必要な支援を見極めて、計画へ盛り込んでいる。他の事業所とも連携しながら、子どもに必要なサービスが提供されるように努めている。</p> <p>子どもの1週間のスケジュールをモニタリング時に見直し、新たにサービスを提案する際には、本人に負担とならないよう、段階的にサービスを増やす提案をするなどの配慮をしている。</p>		
<p>訪問やモニタリング時などに本人の様子を観察して状況把握をしている</p> <p>契約時より本人や家族の状況を細部にわたり観察して、その支援の経過を記録している。他のサービス提供を受けている間の利用状況や経過については、定期的な訪問や電話連絡による情報収集やモニタリング時に確認し、記録がされている。これらの記録をもとに、本人の変化などについて細かな点に気付くことができるようにしている。医療や学校、関係事業所にも情報収集を収集して、本人の色々な環境での過ごし方を多角的な視点で観察し、状況把握を行っている。</p>		
<p>子どもの発達段階に合わせた適切な支援や提案を行っている</p> <p>本人や家族から聞き取った要望や希望をもとに、希望する生活が実現できるように細かな点まで検討を行い、サービスの提案を行っている。子どもの将来的な自立を目標に各計画の作成やサービスにつなげている。家族の意見も踏まえて、その後の生活で必要になるであろうことができるようになるための支援を提案している。</p>		

利用者調査結果の中でも、子どもの成長・発達に合わせた各種提案や支援により、成長を感じることができている、という意見が出ている。子どもの状況を把握して、適切な支援が行われている。

一人ひとりのサービス等利用計画は、子どもや保護者の希望と関係者の意見を取り入れて作成している

1 事業所としてサービス等利用計画作成にあたっての基本的考え方や方法を明確にしている（個性の尊重・自立支援の視点等）	○
2 各種サービスに関する情報を収集し、子どもや保護者のニーズに応じて提供している	○
3 サービス等利用計画は子どもや保護者の望む生活像をもとに、子どもや保護者の状況や要望などを取り入れて作成している	○
4 子どもと保護者の意向が異なる場合には、話し合いを行うなど、調整を図っている	○
5 子どもや保護者の要望と専門的視点からみたニーズが一致しない場合、可能な限り子どもや保護者に説明し同意を得るようにしている	○
6 作成したサービス等利用計画の内容について説明し、同意を得ている	○

講評

自立へ向けた検討課題を明確にして、サービス等利用計画を作成している

子どもの自立に向けて必要な事項をピックアップし、どのような支援が理想的であるかを、家族や周辺環境を含めて検討を行い、他事業所と連携しながら計画を立てている。モニタリング時には各計画の達成状況を明確にして、次期の計画においてどのような事項が必要であるかを検討している。本人の発達段階に合わせた新たなサービスの提案など、柔軟な姿勢を持って対応をしている。

家族へ計画を丁寧に説明し、専門的なアドバイスも行っている

作成したサービス等利用計画は、家族に丁寧に説明を行っている。サービスを利用することで、子どもがどのような成長をしていくか、という展望を含めて説明を行っている。計画作成前やモニタリング時に現状把握を行い、家族が子どもの発達に関して困難を感じている時は、時間を設けて丁寧な相談を行い、専門的なアドバイスを行っている。利用者調査結果からも職員が丁寧に且つ効果的な計画を説明して納得を得ていることが回答からも伺える。

地域の関係機関やサービス提供事業所との連携を深めている

事業計画の中で、重点課題として地域との連携を挙げている。区内外の地域資源の把握、サービス提供事業者との連携、地域で支援を必要とする人とそのニーズの把握、という具体的な取り組みを明記している。

地域資源の活用とサービス提供事業者との連携に関しては、継続的なモニタリングや計画作成時の提案の中で、共に利用者のニーズの把握に努めて、円滑なサービス提

<p>供を実現させている。地域へのアウトリーチに関しては関係機関との連携をより図ることを課題としており、継続的に区内外の情報収集に努めている。</p>		
<p>子どもや保護者の状態を分析し、サービス担当者会議等によって効果的なサービス等利用計画となるように調整している</p>		
1	保護者やサービス提供事業者等関係者とアセスメント内容を共有している	○
2	職員が作成したサービス等利用計画のサービス内容について、保護者やサービス提供事業者等関係者から意見を収集し、必要に応じて見直しをしている	○
3	サービス担当者会議の内容を記録している	●
4	必要に応じて、自治体や子ども家庭支援センター等と連携を図っている	○
<p>講評</p>		
<p>会議やモニタリングを通じて計画が本人に合ったものとなっているか確認している</p>		
<p>サービス等利用計画の進捗状況の確認のため、定期的なモニタリングや関係事業者とのサービス担当者会議の機会を活かして、利用者の状況や家族の要望等を明確にして、計画の更新に役立てている。</p> <p>会議の際には利用者の状況なども観察することで、新たなサービスの検討や提案につなげている。事業者とは、利用状況や子どもの事業所内での様子を聞き取り、サービスの提供状況を把握している。このように定期的に利用者事業所の状況を把握することで、子どもの発達段階に合わせたサービス提供となるように心がけている。</p>		
<p>地域との連携のため、定期的な情報交換の場を活用して情報収集をしている</p>		
<p>区内事業所が事業内容や活動状況の情報交換を行う「小規模地域連絡会」に参加し、各事業所の取り組みや利用状況などを把握している。発達障害児の支援に関する意見交換も行っており、事業所での支援に活かしたり、家族支援をより充実化していく取り組みにつなげている。</p> <p>特別支援学校とは、次年度に通学予定の子どもの状況を確認し合い、学校生活にスムーズに移行できるよう、情報提供しながら連携を図っている。</p>		
<p>新たな会議の場を作り、よりスムーズな情報共有などを行っていききたい意向である</p>		
<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、他事業所への訪問などで、以前よりも回数が減少している。また、サービス担当者会議に関しても同様に、利用者や関連事業者などが一同に会する機会を作ることが難しく、今後は新たな方法で改善を図って行きたいと考えている。利用者とはメールなどでモニタリングを行っている実績もあることから、ICT技術を利用した新たな試みを行っていききたい意向である。</p>		
<p>サービス等利用計画に基づいて提供されるサービスの開始当初に、サービス提供の状況を確認している</p>		

1 提供されているサービス内容がサービス等利用計画の援助目標に沿ったものであるかを確認している	○
2 サービスの提供によって生じる子どもの状態や環境等の変化を確認している	○
3 提供しているサービスに過不足がないかの確認をし、必要に応じて調整している	○
4 計画相談支援の経過を記録し、把握している	○
5 子ども、保護者とサービス提供事業者の関係が良好であるか確認をしている	○

講評

サービス提供開始当初に、子どもの状況や事業所での様子を確認している

原則として利用者がサービス利用を開始してから一定の期間内に事業所訪問を行い、子どもの様子の確認や、事業所からの意見や状況の聞き取りを行っている。その際には、計画上の目標と合致した支援が行われているかを確認している。子どもや家族の満足度なども確認して、継続的なサービス利用となるように情報交換を行っている。これらの状況は事業所のパソコンアプリの中に記録が行われて、支援の経過と本人の様子の変化の経緯がわかるようにしている。

モニタリングで利用者の状況を把握し、サービスの調整を行っている

定期的なモニタリングの中で、子どもとその家族、利用している事業所の双方からの聞き取りを行い、サービスの提供状況や経過、関係性といった包括的な把握を行い、必要に応じてサービス利用日数などの調整を行っている。

利用者主体のサービス提供がなされているか、また、それが安定的に継続されているかを確認している。子どもとその家族の満足度を図り、要望などを聞き取ることも行われている。

子どもや保護者の状態や環境の変化を継続的に把握し、必要に応じてサービス等利用計画の見直し・変更を行っている

1 サービス等利用計画における援助目標の達成度を定期的に把握し、記録している	○
2 子どもや保護者の状況や要望等の変化を定期的に把握している	○
3 援助目標の達成状況や子どもや保護者の状態変化等必要に応じて再アセスメントを行っている	○
4 子どもや保護者の状態や要望の変化に対応しサービス等利用計画の見直し・変更をしている	○

講評

計画の状況を定期的に見直して、記録を行っている

モニタリング記録の中には、計画上で提案したサービスに対して、本人がどのような状況で支援を受けているか、また、その結果本人にどのような変化が表れているかが、実際に現場で確認したことを中心に明確に記されている。
 家族とも面談やメール、電話でのやり取りの中で、現状と今後の課題を話し合い、今後の支援の方針などを決めている。これらは定期的に行われ、子どもの発達に合わせた計画の検討が行われている。

計画作成前より子どもの状況を把握し、定期的にあセスメントの見直しを行っている

サービス等計画書作成前の相談受付時より、子どもの家庭での様子などを聞き取り、アセスメント結果に記録している。必要に応じて作業療法士や理学療法士、作業療法士による専門的な見解も取り入れ、本人の計画を作成している。モニタリングの際は支援の経過を観察するとともに再アセスメントを行い、常に利用者の現況を把握することに努めている。このプロセスを通して、計画が常に子ども本位のものとなるようにしている。

子どもの状況に応じてモニタリングし、柔軟に計画変更ができるようにしている

モニタリングは、子どもの状況や生活環境の変化に応じて行っている。新たなサービス利用を始める際などは、対象事業所と連携してサービス等利用計画の内容を更新している。モニタリング記録には新たな事業所での様子等を詳細に記してあり、この内容を専門職と検討した上で、子どもや家族の要望を取り入れて目標を決めている。
 目標達成の判断は、モニタリングごとに実施しており、達成状況を確認しながら時期の目標について検討している。

全体講評

特に良いと思う点

他地区の情報を収集して、担当区のより良い支援に活かしている

地域の障害者支援に関して、本人や家族のニーズを把握することができるように「小規模地域連絡会」に参加している。担当区以外の取り組みに関して見識を広げることや、特別支援学校とも情報共有することで、地域の課題を把握して的確なサービス等利用計画に反映できるようにしている。この取り組みにより他地域の事業状況を確認して、担当区のケースに反映させるなど多角的な見地で業務を行っている。

コロナ禍の中で安全に配慮し、子ども・家族・事業所の状況を把握している

新型コロナウイルス感染症の影響により、家庭や事業所への訪問が望ましくない状況が継続していた。このような事態の解決のため、メールなどのICTを活用したモニタリングを行うなど、利用者の安全を確保しながら業務を継続している。コロナ禍が続く中でも、新たな方法で利用者の状況把握や要望の聞き取りを行い、利用者の不利益とならないように業務の継続を図っている。

利用者の状況に応じてモニタリングを行い、現況把握に努めている

定期的に行われるモニタリングにより担当する子どもの現況を細かに把握して、サービス等利用計画の更新をしている。子どもが新たなサービスを受ける場合は、モニタリング期間以外にも子どもや家族との面談を行っている。面談結果を踏まえ、サービスが適切に提供され、本人の発達や生活環境の改善に有益なものになるように計画を変更している。このように、柔軟な姿勢で、こどもの状況を把握して適切なサービスにつなげることに取り組んでいる。

多くの事業所情報を収集し、計画作成に活用している

サービス等利用計画を作成するにあたり、利用するサービス事業所の情報を確保することは、子どもの地域生活を豊かにするために重要な要素となっている。区の運営する計画相談支援・障害児相談支援として、区内の事業所情報を豊富に収集しており、サービス内容についても熟知をしている。

連絡会などに参加し、常に最新の事業所情報の収集に努め、利用者のニーズに適合したサービス提供となるようにしている。

さらなる改善が望まれる点

重要な判断が必要な際に相談ができる、アドバイザー的立場の職員の配置に期待する

事業所の計画相談員はチームとして連携しており、多くのサービス等利用計画の作成に携わっている。子どもや家族のニーズに則したものとなるように、職員間での話し合いや検討が密に行われている。前年度には管理職の組織を強化して、報告・連絡・相談などのしやすい環境に改善をしているが、計画相談支援・障害児相談支援の組織ではリーダー的役割の職員がいないため、重要な判断を行う際の相談などが難しい状況となっている。今後はその様な判断がされる場合のアドバイザー的な職員配置がされることを期待する。

コロナ禍でも、安全を確保しながらサービス担当者会議を実施していくことに期待する

新型コロナウイルス感染症の影響により、家庭への訪問や、サービス担当者会議を実施することが難しい状況が続いている。事業所としても、この点を改善していきたいとしているが、利用者を含む関係者の安全確保と感染拡大防止の観点から、状況を改善することが難しい状況である。代替策として、モニタリングなどはメールで行っていることから、ICT化を進めることで、安全な環境下での会議の開催ができるようになることを期待する。